※令和４年度以降入学生用

学校番号	２２０１

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２	年次	２～４
使用教科書	「ｉ版　化学基礎」　（啓林館）						
副教材等	「化学基礎の徹底演習ドリル」　（啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日々の出席及び、ふりかえりカードの提出で、意欲・態度を評価します。また、ノートやワークの記述、定期考査及びプレテストの結果や実験の参加及びレポートの提出を総合して評価するので、最後まで諦めずに取り組んでください。

２　学習の到達目標

①日常生活との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
②身の回りの科学的事象から問題を見出し、観察・実験の結果から分析・考察したものを表現できる。
③目的意識をもって観察・実験などを行い科学的に探究する力や、物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期または後期	第1部 物質の構成	第１章　化学と物質 1.物質の構成 2.混合物の分離・精製 3.元素と単体・化合物 4.成分元素の検出 5.粒子の熱運動と物質の三態	a: 物質の成り立ちや純物質と混合物、元素と単体・化合物の違いを理解している。 状態変化と熱運動や温度変化との関係性を理解している。 b: 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を通して、物質を探究する具体的な方法を考察し、それぞれの特徴を説明できる。 c: 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。	定期考査	定期考査	学習状況の様子 ふりかえりカード 実験への取り組み 課題提出
		第２章　物質の構成粒子 6.原子の構成 7.同位体 8.電子配置 9.イオンの生成 10.イオンの生成とエネルギー 11.元素の周期表	a: 原子の電子配置を理解し、原子番号 20 番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。 b: 原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的確に表現することができる。 c: 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。	定期考査	定期考査	学習状況の様子 ふりかえりカード 実験への取り組み 課題提出
		第３章　化学結合 12.イオン結合 13.イオン結晶とその性質 14.共有結合と分子 15.共有結合の表し方 16.配位結合 17.電気陰性度と極性 18.分子からなる物質と分子間に働く力 19.分子からなる物質の代表例 20.共有結合結晶 21.金属結合と金属 22.化学結合と物質の分類	a: 化学結合と結晶の性質について理解し、知識を身につけている。 b: 物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。 c: 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとしている。	定期考査	定期考査	学習状況の様子 ふりかえりカード 実験への取り組み 課題提出
	第2部 物質の変化	第１節　物質量と化学反応式 23.原子量 24.分子量・式量 25.物質量と粒子の数 26.物質量と質量 27.物質量と気体の体積 28.溶液と濃度 29.化学反応式 30.化学変化の量的関係 31.過不足のある化学変化の量的関係	a:化学反応式を用いて化学変化を表すことができる。 b: 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。 c: 物質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質量と質量、気体の体積との関係も理解しようとしている。	定期考査	定期考査	学習状況の様子 ふりかえりカード 実験への取り組み 課題提出
		第２章　酸と塩基 32.酸と塩基の定義 33.酸・塩基の価数と強弱 34.水の電離とpH 35.水溶液の希釈とpH 測定 36.中和と塩 37.塩の性質 38.中和反応の量的関係 39.中和滴定 40.滴定曲線	a: 水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度や pH との関係を理解し、知識を身につけている。 b: 酸・塩基の観察、実験から共通性を見いだし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて考察できる。 c: 酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて、意欲的に探究しようとしている。	定期考査	定期考査	学習状況の様子 ふりかえりカード 実験への取り組み 課題提出
		第３章　酸化還元反応 41.酸化と還元の定義 42.酸化数 43.酸化剤と還元剤 44.酸化還元反応の反応式 45.酸化還元反応の量的関係 46.イオン化傾向 47.金属の酸化還元反応 48.酸化・還元の利用−電池− 49.電池の仕組み 50.酸化還元反応の利用−金属の製錬−	a: 金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、電池の構成などの基本的な知識を身につけている。 b: 酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。 c: 燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとしている。	定期考査	定期考査	学習状況の様子 ふりかえりカード 実験への取り組み 課題提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度